

# 第 18 期 事業報告書

自 2025(令和 7)年 4 月 1 日

至 2026(令和 8)年 3 月 31 日

石垣空港ターミナル株式会社

## 目 次

事 業 報 告 .....	1
貸 借 対 照 表 .....	9
損 益 計 算 書 .....	10
株主資本等変動計算書 .....	11
個 別 注 記 表 .....	12
監 査 報 告 書 .....	15

## 事業報告

自 2025(令和7)年4月1日  
至 2026(令和8)年3月31日

### 1.株式会社の現況に関する事項

#### (1)事業の経過及び成果

2025(令和7)年の国内経済は、春闘にて3年連続で大幅な賃上げが実施され所得環境は改善したものの物価の上昇を受けたことにより、個人消費の動きは力強さに欠ける状況となりました。一方、企業動向においては円安を背景に輸出企業を中心に増収となり、設備投資の動きが活発化いたしました。

県内経済は、力強い観光需要を背景に緩やかに拡大する動きとなりました。国内外の旅行需要の高まりにより入域観光客数は前年実績を上回るペースで推移し、単月で過去最多を記録する月も多くありました。

このような状況の中、石垣空港における当事業年度の乗降客数は、国内線は前期実績約268万人を4.0%上回る約279万人となり、過去最高となりました。

また、国際線は5年ぶりに定期便運航が再開し、新規就航の韓国線に加え、従来からの香港・台湾を加えた3路線が運航されたことにより乗降客数は約13万5千人となり、過去最高となりました。

当事業年度における当社の営業成績は、売上高は前年同期比9.9%増の11億1,158万円となり、過去最高となりました。売上原価は前年同期比0.1%減の6億7,036万円、販売費及び一般管理費は前年同期比9.3%増の1億2,126万円、経常利益は前年同期比45.2%増の3億1,511万円、法人税等の税引き後当期純利益は前年同期比1.9%減の2億429万円となりました。

#### (2)設備投資等の状況

①国内線旅客搭乗橋更新(4基)	336,254千円
②国内線保安検査場改修	119,890千円
③直流電源装置用蓄電池更新	8,500千円
④空調機更新(国内線・貨物棟の一部)	5,510千円
⑤キャッシュレス決済専用貸ロッカー設置	4,878千円

※すべて税抜額

※②のうち、当期発生額は 106,590 千円です。

### (3)資金調達の様況

該当事項はありません。

### (4)財産及び損益の様況

区分	第 15 期	第 16 期	第 17 期	第 18 期 (当事業年度)
売上高	946,296 千円	985,380 千円	1,011,554 千円	1,111,588 千円
当期純利益	165,254 千円	198,579 千円	208,147 千円	204,295 千円
1 株あたり 当期純利益	4,918 円	5,910 円	6,194 円	6,080 円
総資産	4,511,451 千円	4,531,124 千円	4,420,116 千円	4,415,707 千円
純資産	2,583,111 千円	2,781,690 千円	2,989,838 千円	3,194,133 千円

(注)1 株当たり当期純利益は期中平均株式数に基づき算出しております。

### (5)対処すべき課題

2026(令和 8)年度の国内経済は、不安定な世界情勢や物価高騰などの懸念材料を抱えつつも、賃上げによる消費マインドの改善やインバウンド需要の継続などによる底堅い消費と、旺盛な設備投資意欲に支えられ、回復の動きが続く見通しです。

県内については、物価高による節約志向は継続するものの、国内外からの旺盛な観光需要が見込まれるとともに、建設関連でも公共工事は底堅く推移し、民間投資の拡大も期待されることから、県内経済は、総じて緩やかな拡大の動きが継続すると予想されます。

このような経済基調の中、当社としましては、需要動向を的確に捉えつつ、関係各所と緊密に連携しながら空港の受入体制と施設機能の強化を図り、安定的な経営基盤の構築に努めてまいります。

#### ①ターミナル施設の機能強化

沖縄県によるエプロン拡張整備検討との整合性を図りつつ、固定スポットの増設をはじめとする旅客ターミナル施設の機能強化策が実現できるよう、関係

機関とも緊密に連携して財源確保に向けた調整を進めてまいります。

また、賃貸事務室の入居需要に対応するため、貨物地区に事務所棟を増築整備いたします。

## ②持続可能な国際線受入体制の構築

国際線は冬季の就航便数が大きく減少することから、グランドハンドリングをはじめとする受入体制の維持が課題となっています。冬季の就航促進には、行政や観光関連団体による需要喚起策が不可欠であるため、当社といたしましては、これら関係機関との連携を強化し、新規路線の誘致と増便の働きかけについて注力してまいります。

## ③人材育成と業務効率化の推進

充足した人的リソースを最大限に活用するため、計画的なジョブローテーションの実施を通じて業務の属人化を解消し、相互補完できる体制を構築します。また、引き続きDX等による業務効率化を進め、多様な課題に迅速かつ的確に対応できる強い組織を目指します。

これらの取り組みを通じて業務生産性を高め、年休取得率の向上をはじめとした「働きやすく、働きがいのある職場環境づくり」を一層推進してまいります。

## (6)従業員の状況(2026(令和8)年3月31日現在)

従業員数	前期末比増減
10名	3名増

(注)正社員10名

## (7)借入先及び借入額(2026(令和8)年3月31日現在)

借入先	借入金残高	借入先が有する当社の株式数
沖縄振興開発金融公庫	763,744千円	10,600株
沖縄県(ふるさと融資)	83,686千円	8,400株

## 2.株式に関する事項(2026(令和8)年3月31日現在)

(1)発行可能株式総数 40,000株

(2)発行済株式の総数 33,600 株

(3)株主数 17 名

(4)株主の状況

	株主名	持株数	出資比率
1	沖縄振興開発金融公庫	10,600 株	31.55%
2	沖縄県	8,400 株	25.00%
3	石垣市	5,200 株	15.48%
4	日本トランスオーシャン航空株式会社	1,400 株	4.17%
5	ANA ホールディングス株式会社	1,400 株	4.17%
6	那覇空港ビルディング株式会社	800 株	2.38%
7	沖縄電力株式会社	700 株	2.08%
8	株式会社琉球銀行	700 株	2.08%
9	株式会社沖縄銀行	700 株	2.08%
10	株式会社沖縄海邦銀行	700 株	2.08%
11	オリオンビール株式会社	700 株	2.08%
12	沖縄セルラー電話株式会社	700 株	2.08%
13	竹富町	600 株	1.78%
14	大同火災海上保険株式会社	400 株	1.19%
15	石垣市商工会	200 株	0.60%
16	一般社団法人石垣市観光交流協会	200 株	0.60%
17	与那国町	200 株	0.60%
	合計	33,600 株	100.00%

### 3.会社役員に関する事項

(1)取締役及び監査役の氏名等(2026(令和 8)年 3 月 31 日現在)

地位	氏名	担当または他の法人等の代表状況
代表取締役社長	中山 義 隆	石垣市長
代表取締役専務	新 垣 健 一	
取締役	前 泊 辰 哉	沖縄振興開発金融公庫融資第一部長

取締役	砂川 勇二	沖縄県土木建築部長
取締役	河野辺 朋広	全日本空輸(株)沖縄支店長
取締役	喜納 健	日本トランスオーシャン航空(株)取締役執行役員
取締役	仲里 求	那覇空港ビルディング(株)常務取締役
取締役	黒島 一博	(一社)石垣市観光交流協会副会長
取締役	下地 寛正	石垣市商工会副会長
常勤監査役	山城 興司	

(注)1 取締役 前泊 辰哉・砂川 勇二・河野辺 朋広・喜納 健・仲里 求・黒島 一博・  
下地 寛正の各氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

2 常勤監査役 山城 興司氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

## (2) 役員の異動

- ①取締役 前村 司、根間 要の両氏は、第17期定時株主総会終結のときをもって辞任いたしました。
- ②第17期定時株主総会において、新任として前泊 辰哉、砂川 勇二、喜納 健の各氏が取締役に選任され就任いたしました。
- ③代表取締役社長中山義隆氏は、2025年6月28日をもって代表取締役及び取締役を辞任いたしました。
- ④2025年9月26日付の書面による株主総会決議により、中山義隆氏が取締役に選任され就任し、2025年10月20日付の書面による取締役会決議により代表取締役社長に選定され就任いたしました。

## (3) 役員の報酬等の総額

役職	支給人数	報酬等の総額
取締役	2名	9,414千円
社外取締役	6名	600千円
監査役	1名	6,852千円
合計	9名	16,866千円

## (4) 役員の報酬等の算出方法

取締役及び監査役の報酬、賞与その他の職務執行の対価として当社から受ける財産上の利益は株主総会の決議によって定めております。

#### 4.会計監査人に関する事項

(1)会計監査人の氏名または名称

公認会計士 賀数 紀之

公認会計士 仲程 優

(2)会計監査人の報酬等に監査役が同意した理由

当社の監査役は、従前の事業年度における職務執行状況や報酬見積の算出根拠等を検討した結果、会計監査人の報酬等について、会社法第 399 条第 1 項の同意を行っております。

(3)会計監査人が業務停止を受け、その停止期間を経過しない者であるときの、その処分に係る事項

該当事項はありません。

(4)会計監査人が過去 2 年間に業務停止を受けたものである場合における当該処分に係る事項のうち、会社が事業報告の内容とすることが適切であるものと判断した事項

該当事項はありません。

#### 5.業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)

(1)取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

①取締役及び使用人は、法令・定款及び社会規範の遵守を常に心がけ、以下の行動指針に従って職務の執行にあたる。

- ・地域と共に繁栄する会社になること
- ・地域から信頼される会社になること
- ・空港ターミナルビルを利用するお客様に信頼・支持される施設・商品・サービスを提供すること
- ・社内コミュニケーションの醸成に努め、会社の使命を共有化すること

②意思決定及び職務執行に係る諸規程を定め、相互牽制が機能する体制を構築する。

- ③監査役を設置し、取締役の職務執行について法令等に基づき監査する。
- ④使用人に対し、適宜コンプライアンスに関する研修を実施する。

(2)取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ①株主総会議事録、取締役会議事録等の法令文書のほか、重要な職務執行に係る文書及び情報を、法令及び社内関係諸規程の定めに従い、適切に記録・保存・管理する。
- ②前項の文書及び情報は、必要に応じて取締役、監査役、会計監査人等が閲覧可能な状況で管理する。
- ③法令等に定める開示事項は、適時適切な開示に努める。

(3)損失の危機の管理に関する規程その他の体制

- ①取締役会は企業の継続性確保のためリスク管理体制の構築及び推進を行い、リスクの把握と予防及び改善に努める。
- ②管理職は、自部門の管理体制を適宜整備・改善するとともに、必要に応じてその状況を取締役会及び監査役へ報告する。

(4)取締役の職務遂行が効率的に行われることを確保するための体制

- ①「経営の意思決定及び監督機能」と「業務執行機能」を分離し、取締役会は、「経営の意思決定及び監督機能」を担い、役付取締役は重要業務に係る「業務執行機能」を担う。
- ②取締役会は、3ヶ月に1回の定例取締役会、また必要に応じ臨時取締役会を開催し、経営事項の審議及び決定を行うとともに、各取締役の職務の執行を監督する。
- ③役付取締役は、取締役会に業務執行状況を報告するとともに、当該業務執行に関する他の取締役の意見を聴取する。
- ④役付取締役は、取締役会付議事項の審議決定を行い、取締役会が決議した事項並びにその他業務の執行について、社内規程に基づき使用人に指示命令を行う。
- ⑤業務執行を担当する取締役の職務執行の効率化を図るため、合理的な職務分掌を定める。

(5)取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する事項

①監査役は、取締役会、社内定例会議等の重要な会議に出席し、取締役及び使用人から重要事項の報告を受ける。

②役付取締役及び使用人は、監査役の要請に応じて必要な報告及び情報提供を行うとともに、次のような緊急事態が発生した場合には、遅滞なく報告する。なお、報告を行った使用人への不利益な取り扱いを行わない。

・当社の経営上に重大な影響を及ぼすおそれのある法律上または財務上に係る諸問題

・その他当社に著しい損害を及ぼすおそれのある事象

(6)その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

①監査役は、役付取締役との間で適宜意見交換会を行う。

②監査役は、会計監査人との間でも情報交換等の連携を図る。

(7)上記基本方針の適正運用に関する取り組み

①役付取締役は、使用人の業務執行状況について定例または臨時の社内会議等において報告を受け、内容を検証し、指導助言を行っております。

②監査役監査等の実効性を高めるため、役付取締役及び使用人は、常に正確な情報開示を意識して文書を管理し、適宜の報告に努めております。

③意思決定または業務執行における取締役会及び役付取締役の権限の妥当性を検証するため、重要な会議には監査役の出席を要請しております。

## 貸借対照表

2026(令和8)年 3月31日 現在

石垣空港ターミナル株式会社

(単位: 円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【流動資産】</b>	1,395,710,604	<b>【流動負債】</b>	565,692,181
現金及び預金	1,195,988,677	1年以内返済長期借入金	274,622,000
売掛金	55,892,126	未払金	145,618,926
貯蔵品	2,752,746	未払費用	14,364,531
前払費用	2,696,958	未払法人税等	48,072,200
立替金	110,980	預り金	456,016
未収金	102,168,517	前受金	20,749,918
未収還付消費税等	36,100,600	賞与引当金	5,075,765
		圧縮未決算特別勘定	56,732,825
<b>【固定資産】</b>	3,019,996,692	<b>【固定負債】</b>	655,881,552
(有形固定資産)	3,004,331,267	長期借入金	572,808,000
建物	2,580,102,052	敷金預り金	60,515,202
構築物	17,749,075	退職給付引当金	20,223,500
機械及び装置	386,896,047	役員退職慰労引当金	2,334,850
車両運搬具	139,906		
工具、器具及び備品	19,444,187	負債合計	1,221,573,733
(無形固定資産)	192,150	純 資 産 の 部	
ソフトウェア	192,150	<b>【株主資本】</b>	3,194,133,563
(投資その他の資産)	15,473,275	資本金	1,680,000,000
差入保証金	245,060	利益剰余金	1,514,133,563
共同施設負担金	2,569,863	その他利益剰余金	1,514,133,563
繰延税金資産	12,658,352	施設機能維持積立金	566,000,000
		建設積立金	505,000,000
		繰越利益剰余金	443,133,563
		純資産合計	3,194,133,563
資産合計	4,415,707,296	負債及び純資産合計	4,415,707,296

## 損益計算書

自 2025(令和 7)年4月 1日  
至 2026(令和 8)年3月31日

石垣空港ターミナル株式会社

(単位: 円)

科 目	金 額	
<b>【売上高】</b>		
賃貸料収入	1,067,110,340	
付帯事業収入	44,478,243	
売上高合計		1,111,588,583
<b>【売上原価】</b>		
不動産賃貸原価	670,365,216	
合 計	670,365,216	
売上原価		670,365,216
売上総利益		441,223,367
<b>【販売費及び一般管理費】</b>		
販売費及び一般管理費合計		121,265,885
営業利益		319,957,482
<b>【営業外収益】</b>		
受取利息	3,224,834	
受取手数料	6,936,693	
雑収入	803,493	
営業外収益合計		10,965,020
<b>【営業外費用】</b>		
支払利息	15,706,741	
雑損失	97,424	
営業外費用合計		15,804,165
経常利益		315,118,337
<b>【特別利益】</b>		
補助金収入	99,156,625	
特別利益合計		99,156,625
<b>【特別損失】</b>		
固定資産除却損	67,912,885	
特別勘定繰入額	56,732,825	
特別損失合計		124,645,710
税引前当期純利益		289,629,252
法人税、住民税及び事業税		86,820,478
法人税等調整額		△ 1,486,523
当期純利益		204,295,297

## 株主資本等変動計算書

自 2025(令和7)年4月1日  
至 2026(令和8)年3月31日

(単位: 円)

【株主資本】

資 本 金	当期首残高		1,680,000,000
	当期変動額		0
	当期末残高		1,680,000,000
利 益 剰 余 金			
その他利益剰余金			
施設機能維持積立金	当期首残高		466,000,000
	当期変動額	積立金の積立	100,000,000
	当期末残高		566,000,000
建設積立金	当期首残高		405,000,000
	当期変動額	積立金の積立	100,000,000
	当期末残高		505,000,000
繰越利益剰余金	当期首残高		438,838,266
	当期変動額	積立金の積立	△ 200,000,000
		当期純利益額	204,295,297
	当期末残高		443,133,563
利益剰余金合計	当期首残高		1,309,838,266
	当期変動額		204,295,297
	当期末残高		1,514,133,563
株 主 資 本 合 計	当期首残高		2,989,838,266
	当期変動額		204,295,297
	当期末残高		3,194,133,563
純 資 産 合 計	当期首残高		2,989,838,266
	当期変動額		204,295,297
	当期末残高		3,194,133,563

## 個別注記表

### <重要な会計方針に係る事項に関する注記>

#### 1. 資産の評価基準及び評価方法

##### (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品・・・先入先出法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法)

#### 2. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産及び無形固定資産は、定額法によっております。

#### 3. 引当金の計上基準

##### (1) 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、期末現在の従業員に対する支給対象期間の支給見込額を計上しております。

##### (2) 退職給付引当金

従業員の退職に備えるため、内規に基づき期末要支給見込額を計上しております。

##### (3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づき期末要支給見込額を計上しております。

#### 4. 収益及び費用の計上基準

約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

当社は空港施設等に係る不動産賃貸事業を主たる事業としております。

不動産賃貸事業に係る収益は、顧客との契約に基づいて施設等を提供する履行義務を負っております。当該契約は、一定の期間にわたり履行義務を充足する取引であり、履行義務の充足の進捗度に応じて収益を認識しております。

#### 5. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

##### (1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

### <貸借対照表に関する注記>

#### (1) 担保に供している資産及び担保に係る債務

##### ① 担保に供している資産

建物 2,457,892,946 円

##### ② 担保に係る債務

1年以内返済長期借入金 190,936,000 円

長期借入金 572,808,000 円

合計 763,744,000 円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 2,721,404,435 円

(3) 有形固定資産の圧縮記帳累計額 4,122,732,847 円

<損益計算書に関する注記>

1.該当事項はありません。

<株主資本等変動計算書に関する注記>

(1)発行済株式の種類及び総数

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式	33,600株	-	-	33,600株

<税効果会計に関する注記>

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な要因

(単位:円)

繰延税金資産

賞与引当金繰入額	1,564,350
未払事業税	3,483,492
未払費用否認額	238,036
貯蔵品	3,633
特別勘定繰入額	17,485,056
減価償却超過額	24
繰延資産償却超過額	8,898
一括償却資産損金算入限度超過額	407,437
退職給付費用	6,232,882
役員退職慰労引当金	719,600
<b>【繰延税金資産合計】</b>	<b>30,143,408</b>

繰延税金負債

未収補助金	17,485,056
<b>【繰延税金負債合計】</b>	<b>17,485,056</b>
<b>【繰延税金資産(負債)の純額】</b>	<b>12,658,352</b>

<金融商品に関する注記>

1. 金融商品の状況に関する事項

当社は事業計画に照らして、必要な資金運用については、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。また、余剰資金の運用は安全性及び随時換金性を重視した運用に限定しています。なお、当社はデリバティブ取引について実績はございません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2026(令和8)年3月31日(当期の決算日)における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位:円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
資産			
(1)現金及び預金	1,195,988,677	1,195,988,677	-
(2)売掛金	55,892,126	55,892,126	-
負債			
(1)長期借入金 (1年以内返済長期借入金を含む)	847,430,000	844,667,544	-2,762,456

(注) 金融商品の時価の算定方法

資産について

(1)現金及び預金、(2)売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

負債について

(1)長期借入金

長期借入金の時価については、元金利率の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

<賃貸等不動産に関する注記>

(1) 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社は、石垣空港ターミナルビルの一部について、賃貸しております。

(2) 賃貸等不動産の時価に関する事項

(単位:円)

貸借対照表計上額	時価
2,580,102,052	2,580,102,052

(注1) 上記事項は、賃貸等不動産として使用される部分を含めたターミナルビル全体の建物として表示しております。

(注2) 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額です。

(注3) 当期末の時価は、貸借対照表計上額を時価としております。

<関連当事者との取引に関する注記>

(単位:円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
主要株主	沖縄振興開発金融公庫	被所有 直接 31.55% 間接 0%	借入	資金の返済	190,936,000	1年以内返済 長期借入金	190,936,000
						長期借入金	572,808,000
				利息の支払	15,505,898	未払費用	3,290,376
主要株主	沖縄県	被所有 直接 25.00% 間接 0%	借入	資金の返済	83,684,000	1年以内返済 長期借入金	83,686,000
						長期借入金	0
			賃借料	土地代	4,891,060	—	—
主要株主	石垣市	被所有 直接 15.48% 間接 0%	補助金	補助金の 受け入れ (国際線運営費)	42,423,800	未収金	42,423,800

<1株当たり情報に関する注記>

1株当たり純資産額 95,063 円50銭

1株当たり当期純利益 6,080 円22銭

<重要な後発事象に関する注記>

該当事項はありません。

<その他の注記>

(1) 資産除去債務に関する注記

当社は、沖縄県空港の設置及び管理に関する条例及び沖縄県指令第220号(2023(令和5)年3月2日)に基づき、当石垣空港ビル敷地の原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、将来当空港ビルを移転する計画もないことから、資産除去債務を合理的に見積もることが出来ないため、当該債務に見合う資産除去債務を計上していません。

独立監査人の監査報告書

令和8年5月22日

石垣空港ターミナル株式会社  
取締役会 御中

賀数会計事務所

沖縄県豊見城市

公認会計士 賀数 紀之

仲程公認会計士事務所

沖縄県沖縄市

公認会計士 仲程 優

監査意見

私たちは、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、石垣空港ターミナル株式会社の令和7年4月1日から令和8年3月31日までの第18期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

私たちは、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私たちの責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。私たちは、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私たちは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

私たちの計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私たちはその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における私たちの責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は私たちが監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

私たちは、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、私たちが報告すべき事項はない。

計算書類等に対する経営者並びに監査役責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成

し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

会社と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監 査 報 告 書

私は、令和7年4月1日から令和8年3月31日までの第18期事業年度の取締役の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について以下のとおり報告いたします。

### 1. 監査の方法及びその内容

私は、取締役及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。

- ① 取締役会その他の重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。
- ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
- ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について四半期ごとに報告を受け、必要に応じて説明を求め、監査活動の適切性及び妥当性を評価いたしました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告、計算書類及びその附属明細書について検討いたしました。

### 2. 監査の結果

#### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。引き続き整備と充実に取り組むことが、重要であると考えます。

#### (2) 計算書類及び附属明細書の監査結果

会計監査人、賀数紀之氏及び仲程優氏の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

令和8年5月28日

石垣空港ターミナル株式会社

常勤監査役 山城 興 司 ㊞

以 上